

屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループの設置等について(案)

- 1 屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ(以下「ヤクシカWG」という)の設置について
別紙1のとおり
- 2 「ヤクシカWG」の検討事項
厳正な保護を図るべき屋久島世界遺産地域においてヤクシカの採食等により森林の植生や希少植物の生育等に悪影響が出ていることから、世界遺産地域におけるヤクシカ被害について科学的知見に基づき対策を講じることを目的として、次の点について検討を行う。
 - ① 世界遺産地域におけるヤクシカによる森林植生等への被害及び生息状況等の確認
 - ② 世界遺産地域における対応策の基本的考え方の整理
 - ③ 具体的対応策についての検討
地域：西部地域(西部林道)
東部地域(愛子岳山麓)
花之江河等の高層湿原
その他遺産地域等
対策：植生保護、シカの個体数調整、その他
 - ④ ヤクシカの個体数管理手法及びモニタリング手法
 - ⑤ 植生回復手法及びモニタリング手法
 具体の検討内容は、「ヤクシカWGの検討事項について」(別紙2)のとおり
- 3 科学委員会「ヤクシカWG」の委員
 - (1) ヤクシカWGは、林野庁の「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業(屋久島地域)(21年度～25年度)」で設置された検討委員会を基に、屋久島世界遺産地域科学委員会メンバーを科学委員会委員、その他の委員を特別委員として構成する。
特別委員については、検討すべき事項に応じ、「ヤクシカWG」で必要と判断する場合は適宜追加することが出来るものとする。
 - (2) 委員
(科学委員会委員)
矢原徹一 九州大学大学院理学研究院教授：生態学・進化生物学
吉良今朝芳 鹿児島国際大学教授(非常勤)：森林利用・菌類
荒田洋一 屋久島在住樹木医：植物生理
立澤史郎 北海道大学大学院文学研究科助教：哺乳類(シカ)
松田裕之 横浜国立大学大学院教授：生態学、数理生態
(特別委員)
手塚堅至 ヤクタネゴヨウ調査隊代表：植物
矢部恒晶 森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ長：哺乳類(シカ)
羽澄俊裕 (株)野生動物保護管理事務所代表取締役：哺乳類(シカ)
4. 当面のスケジュール
 - ① 平成22年7月28日 平成22年度屋久島世界遺産地域科学委員会
 - ② 平成22年9月 第1回ヤクシカWG会合
 - ③ 平成22年12月 第2回ヤクシカWG会合
平成22年度第2回屋久島世界遺産地域科学委員会
(第1回及び第2回ヤクシカWGの検討結果報告)
 - ⑤ 平成23年6月 平成23年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会
第3回ヤクシカWG会合

屋久島世界遺産地域科学委員会 ヤクシカ・ワーキンググループの設置要領について（案）

1. 目的

厳正な保護を図るべき屋久島世界遺産地域においてヤクシカの採食等により森林の植生や希少植物の生育等に悪影響が出ていることから、世界遺産地域におけるヤクシカ被害について対策を講じるにあたり、科学的知見に基づいた助言を得ることを目的として、屋久島世界遺産地域科学委員会設置要綱第4条第5項に基づきヤクシカ・ワーキンググループを設置する。

2. 構成

○ 委員

（科学委員会委員）

矢原徹一 九州大学大学院理学研究院教授：生態学・進化生物学
吉良今朝芳 鹿児島国際大学国際文化部教授：森林利用・菌類
荒田洋一 屋久島在住樹木医：植物生理
立澤史郎 北海道大学大学院文学研究科助教：哺乳類（シカ）
松田裕之 横浜国立大学大学院教授：生態学、数理生態

（特別委員）

手塚堅至 ヤクタネゴヨウ調査隊代表：植物
矢部恒晶 森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ長：哺乳類（シカ）
羽澄俊裕 (株)野生動物保護管理事務所代表取締役：哺乳類（シカ）
※ WGには、検討テーマに応じ、適宜、特別委員を追加することができる。

○ 関係行政機関

環境省九州地方環境事務所
林野庁九州森林管理局（事務局）
鹿児島県
屋久島町

3. 検討スケジュール（当面、関連含む）

- ① 平成 22 年 7 月 28 日 平成 22 年度屋久島世界遺産地域科学委員会
- ② 平成 22 年 9 月 第 1 回ヤクシカWG会合
- ③ 平成 22 年 12 月 第 2 回ヤクシカWG会合
平成 22 年度第 2 回屋久島世界遺産地域科学委員会
（第 1 回及び第 2 回ヤクシカWGの検討結果報告）
- ⑤ 平成 23 年 6 月 平成 23 年度第 1 回屋久島世界遺産地域科学委員会
第 3 回ヤクシカWG会合

ヤクシカWGの検討事項について(案)

- 1 世界遺産地域におけるヤクシカによる森林植生等への被害及び生息状況等の確認
ヤクシカの生息頭数については、平成 20 年度と平成 21 年度にかけて環境省と鹿児島県が全島調査を行い、全島での生息数を約 1 万 2 千頭～約 1 万 6 千頭、平均生息密度を 35 頭/km²（最も密度の高い場所で 96.7 頭/km²（西部地域））と推定している。
これを受けて、最も被害が深刻な西部の世界遺産地域においては林野庁が、東部の愛子岳周辺においては屋久島町や環境省、地域団体が連携して、平成 21 年度より生息密度及び被害状況、ヤクシカの移動実態や捕獲方法等についての検討を実施している。
また、多くの研究者がヤクシカの採食等による森林生態系等への影響等について調査研究を行っている。
これらの過去の調査及び今後の調査結果を踏まえた、世界遺産地域におけるヤクシカの生息頭数及び被害の状況等について現状を確認。
- 2 ヤクシカの被害対策についての基本的考え方
世界遺産地域（約 1 万 ha）のうち特に生息数が多く森林植生等への被害が深刻な西部地域、今後の被害が懸念される東部地域、花之江河等高層湿原、その他の遺産地域等における対応策（適正密度、個体数管理の目標等）を整理する。
また、世界遺産地域以外も含めて鹿児島県が特定鳥獣保護管理計画を検討する場合にはこの検討結果を踏まえるとともに、環境省は国立公園区域を対象とする生態系維持回復事業計画を林野庁と連携して検討する。
- 3 ヤクシカの個体数管理及びモニタリング手法
ヤクシカの個体数管理(捕獲)手法の検討と個体数管理の実施による生息頭数、生息密度等のモニタリング手法等について検討する。
- 4 植生回復手法及びモニタリング手法
植生の保護対策手法及びヤクシカの個体数管理による植生回復等のモニタリング手法等について検討する。
なお、個体数及び植生回復等のモニタリングについては、世界遺産地域の保護管理のためのモニタリング計画に位置づける。